

2026年10月16日

報道関係各位

株式会社JPF

田植えから販売までプロバスケ選手が担う米づくり 大多喜町の「籠米」、2026年産新米を販売開始 ～約10haで米づくり、地域から新たな稲作相談も～

株式会社JPF（本社：東京都千代田区、代表取締役：渡辺俊太郎、以下「JPF」）のグループ企業である株式会社JPFagri（以下「JPFagri」）は、千葉県大多喜町で生産するオリジナルブランド米「籠米（かごめ）」の2026年産新米の販売を開始しました。

「籠米」は、JPFagriが運営する3人制プロバスケットボールチーム「esDGz OTAKI.EXE」の選手たちが、生産者として田植えから収穫、販売まで年間を通じて携わるブランド米です。

2026年も約10haの水田で米づくりに取り組みました。近年では、地域から「この田んぼでも稲作してほしい」と、新たな稲作の相談も寄せられています。



大多喜町内の水田で稲刈りに取り組むesDGz OTAKI.EXEの選手

農業の担い手と、アスリートのキャリア。2つの課題を「スポーツ×農業」でつなぐ

大多喜町では、少子高齢化などを背景に、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加が課題となっています。JPFagriでは、地域の農業課題とセカンドキャリアを見据えたアスリートのキャリア形成の双方に向き合うため、「スポーツ×農業」を軸としたデュアルキャリアモデルに取り組んでいます。

esDGz OTAKI.EXEの選手たちは、競技活動と並行して、千葉県大多喜町で農業に従事しています。農業を仕事のひとつとして担うことで、少子高齢化などを背景とした農業の担い手不足の緩和につなげるとともに、選手自身も競技以外の仕事を通じて、社会人としての経験の幅を広げています。

また、選手たちが農業に取り組む姿をSNSなどで発信し、若い世代が第一次産業や地域農業の現状を知るきっかけとなることを目指しています。

田植えから発送まで、選手が担う「籠米」づくり

「籠米」の米づくりでは、esDGz OTAKI.EXEの選手たちが生産の主体となり、田植え、草刈り、電柵の設置、水田管理、稲刈り、粃摺り、袋詰め、発送まで、米づくりから販売に至る一連の工程を年間を通じて担っています。

「籠米」は2022年に販売を開始し、2026年で5年目を迎えます。名称は、バスケットボールを意味する「籠球」と「米」を掛け合わせて名付けられました。大多喜町特有の粘土質の土壌で育てたコシヒカリで、甘みがあり、冷めてもおいしいことが特徴です。

米づくりでは、耕作放棄地などを活用し、地域の方々が培ってきた稲作の知恵を取り入れ、サポートを受けながら取り組んでいます。生産だけではなく、商品名や米袋のデザインにも選手たちが携わっています。



約10haの水田で進めた、2026年の「籠米」づくり

2026年は、昨年まで農業に携わっていた選手の退団を受け、新体制に加わった目取真選手、小原選手、ヤキブ・ティトブ選手らも新たに米づくりに加わりました。4月から5月上旬にかけて大多喜町内の水田で田植えを行い、その後も草刈りや水田管理などの農作業に取り組みました。

農業経験の浅い選手を中心とした新たな体制で、地域の方々の知恵も取り入れながら米作りに取り組み、稲は例年通り順調に生育しました。

8月下旬からは稲刈りを開始しましたが、連日の雨や台風25号の影響により、一部の稲に倒伏が見られ、2026年産の収穫量は当初見込んでいた約30tを下回る見通しです。

稲刈りや、その後の籾摺りなどの工程にも選手たちが携わり、天候の影響を受けながらも、2026年産「籠米」の収穫を終えました。



地域から「この田んぼでも稲作を」の声

米づくりを続ける中で、「バスケ×農業」のデュアルキャリアや選手の活動について、地域でも徐々に知られるようになりました。

イベント会場などで「籠米」を販売した際には、「選手が農業もやっているの？」と興味を持ち、活動を応援する気持ちから購入する方もいます。

さらに近年では、地域から「ここの田んぼでも稲作をしてほしい」と、耕作放棄地などの活用について相談を受ける機会も増えています。

今後は活動体制を整えながら、地域から寄せられる稲作の相談にも応え、耕作放棄地の減少につなげていくことを目指しています。

2026年産「籠米」販売概要

商品名: 籠米
品種: コシヒカリ

内容量:
2kg／5kg／30kg
※30kgは直販のみ

オンライン販売価格:
2kg 1,800円
5kg 3,800円

販売場所:
オンラインショップ／直販／イベント会場

オンラインショップ:
<https://jpfagri.base.shop/>



2026年産「籠米」

「スポーツ×農業」を、さらに地域へ

JPFagriでは、今後も「籠米」の生産を継続するとともに、「スポーツ×農業」のデュアルキャリアモデルをさらに広げていく方針です。

活動体制を拡充し、より多くの耕作放棄地の活用につなげることで、農業の担い手不足をはじめとした地域課題の解決を目指します。

また、農業だけでなく、バスケットボールをはじめとする各種スクール活動や地域イベントなどを通じて地域との接点を増やし、esDGz OTAKI.EXEが掲げるスローガン「大多喜町のヒーローになる」の実現につなげていきます。

競技と農業の双方に取り組む選手たちの活動を通じて、アスリートのキャリア形成における一つのモデルを示すとともに、若い世代が農業や地域に関心を持つきっかけづくりにもつなげていきます。

【esDGz OTAKI.EXEについて <https://jpfagri.co.jp/exe>】

JPFグループ企業である株式会社JPFagriが運営する3人制プロバスケットボールチームです。「大多喜町のヒーローになる」を掲げ、選手は競技活動と並行して農業にも従事する「デュアルキャリア」を実践しています。バスケットボールだけでなく、地域イベントやスポーツスクール、農業などを通じて、大多喜町に根ざした活動に取り組んでいます。

【株式会社JPFagriについて <https://jpfagri.co.jp/>】

株式会社JPFagriは、千葉県大多喜町を拠点に、農業とスポーツを通じた地域活性化に取り組むJPFグループ企業です。耕作放棄地や放置竹林を活用した農業事業を展開し、地域資源を生かした持続可能な地域づくりに取り組んでいます。こうした活動が評価され、農林水産省および内閣官房主催「第12回 ディスカバー農山漁村(むら)の宝」コミュニティ地産地消部門に選定されました。

《ディスカバー農山漁村(むら)の宝 選定記事》

https://www.jpf.co.jp/jpfnews/2026_jpfagri_discovermuranotakara/

【株式会社JPFについて】

1950年、競輪やボートレースなどの公営競技におけるゴール着順判定用スリットカメラを発明。以来、多くの公営競技場において判定業務を支えてきました。2010年からは公営競技場のトータルマネジメント事業を開始し、全国各地で運営支援を展開しています。「人の成長機会を提供できる企業であり続けること」を理念に、地域活性化やサイクルスポーツ振興など、多様な取り組みを推進しています。

【メディアキット】

本リリースに掲載している写真等のメディア素材は、以下よりダウンロードいただけます。

https://drive.google.com/drive/folders/1qfERdkry3cASafFw_uQlyvc3ilXnd_Jp



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社JPFagri

担当者: 重村・岩澤

お問い合わせ: <https://jpfagri.co.jp/contact/>



【問い合わせQRコード】